

領収書

No.97-11

佐野市議会 公明党議員会 木村久雄様

金額 5,400 円也 (税込)

上記、植物工場 第97回勉強会参加費として正に領収いたしました

2016年4月13日

特定非営利活動法人植物工場研究  
理事長 古在 豊樹  
〒277-0882 千葉県柏市柏の葉6-2-1  
千葉大学環境健康フィールド科学センター  
植物工場事務所内  
TEL 04-7137-8312 FAX 04-7137-8312

行政視察 木村久雄 議員

日時：平成28年4月13日(水)

場所：千葉大学 環境健康フィールド科学センター(柏市柏の葉6-2-1)

区間	交通手段	往復	鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～柏の葉キャンパス駅	鉄道		203.0	2,920	2,060			4,980
								0
計				2,920	2,060	0	0	4,980

宿泊料@16,500×0泊 0円

交通費 4,980円

(うち航空運賃 0円)

計 4,980円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長

廣澤 良英



※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

研修 木村 久雄 議員

日時：平成28年10月2日(日)

場所：栃木県庁東館講堂(宇都宮市埴田1-1-20)

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野～栃木～東武宇都宮	鉄道	往復	86.2	1,480				1,480
計				1,480	0	0	0	1,480

宿泊料@16,500×0泊 円  
交通費 1,480 円  
(うち航空運賃 円  
円  
計 1,480 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長

廣澤 良英



# 領 収 書

木村久雄 様

¥ 1,000-

ただし、両毛六市議会議長会議員研修会負担金として  
上記金額を領収いたしました。

平成29年2月1日

両毛六市議会議長会会長  
足利市議会議長 黒川 貫



# 領 収 書

木村久雄 様

¥ 1,000-

ただし、両毛六市議員懇談会研修会出席者負担金として領収いたしました。

平成29年1月26日

両毛六市議員懇談会

会 長 官 崎



# 特定非営利活動法人 植物工場研究会

## 第97回勉強会

日 時： 2016年4月13日(水) 14:00～17:30

場 所： 千葉大学環境健康フィールド科学センター 植物工場 研修棟 A棟 1F 研修室

コーディネーター： 篠原 温（千葉大学名誉教授・NPO 植物工場研究会）

プログラム：

14:00～14:10 挨拶 古在 豊樹

全国10箇所の次世代施設園芸拠点事業の現状と課題

14:10～15:10 「次世代施設園芸拠点の現状と日本施設園芸協会による  
全国推進事業について」

土屋 和（一般社団法人日本施設園芸協会）

15:10～15:30 休憩

15:30～16:30 「各拠点でみられた技術的問題点と改善について」

東出 忠桐（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）

16:30～17:30 「大型施設になるほど問題となる施設の管理・運営問題とその改善  
～宮崎拠点の例を中心に～」

大山 克己（みのりラボ株式会社）

裏面へ続<

# 現地視察報告書

2016.6.3

1. 日 程 平成 28 年 5 月 26 日
2. 視 察 先 NPO 法人だいじょうぶ (日光市今市 1659-10)
3. 参 加 者 木村久雄 菅原達 (報告者)
4. 目 的 「子どもの居場所」づくりについて学ぶため、NPO 法人だいじょうぶを訪問し、取り組みの様子を伺うと共に、同法人が運営する「子どもの居場所」のひとつ「ひだまり」を現地視察する。
5. 応 対 者 NPO 法人だいじょうぶ 代表 畠山 由美 理事長
6. 内 容

## (1)NPO 法人だいじょうぶの取り組みの様子や様々な指南

- ① 子どもへの虐待を無くす事を目的に、平成 17 年 4 月に設立。  
平成 18 年、市の委託を受けて相談窓口を始めたが、市と法人の窓口への連絡にダブリが見られ、議会の協力を得て 1 年がかりで窓口の一本化を実現。  
⇒平成 19 年から官民一緒に相談窓口を運営し、公共の良さと民間のフットワークの軽さと、両方を生かした相談事業を実施。
- ② それでもなかなか入り込めない所もあり、そこにもどうか介入して普通の生活を送らせてあげようと、「子どもの居場所」を始める。
- ③ 学習支援については、学習塾の塾長さんも強力してくれ高校生、受験生を毎週土曜日見てくれていた。(しかし本来、塾の費用は国が助成してくれればなお良い)
- ④ 市と県で 400 万円の予算⇒支援員配置予算を委託費として支援していただき、助かっている。
- ⑤ 支援の必要な家庭を見つけ出すのに、例えば水道の止まっている情報も、市の他の部門に出すことができれば良いのだが、それが出来ない。
- ⑥ それを発掘するのに、「子ども食堂」は効果的である。放課後、学童保育の終わった後の延長で、例えばカレーライスとか地元のボランティアの方に提供していただき、いろんな理由により家に帰れない状況の子どもは、残ってそこでご飯を食べてから帰るはず。  
まずは、月に 1 回とか 2 回とか出来る範囲で始めればよい。  
なお、小銭であってもお金は発生しない食堂であること。
- ⑦ ただし、学童保育費用も出せない子もいる。学童保育の費用はお菓子大が殆どなので、お菓子代はフードバンクを活用して無料にするか、所得連動型にするか、何かしら配慮が出来る良い。
- ⑧ 一般に、主任児童員は仕事が少ないので、その人を中心に対応するのが良い。
- ⑨ ボランティア説明会で地域の人材を発掘する。ボランティア登録や居場所体験などを通し、無理ない範囲で人材を作っていく。
- ⑩ ソーシャルスクールワーカー (SSW) を配置しても、繋げる先と繋げる方法を勉強しないと、結果的に SSW がひとり抱え込んでしまい行き詰る事になる。

⇒民間への発信や、つなげることが大事。

## (2)その他

- ① 最近のランドセルには値段の格差が大きい。

⇒入学時はジャージ含め学用品を一律にそろえられないものか？

子ども手当での代用にしても良いのでは？ 給食も無料化が望ましい。

- ② 発達障害の子が支援学級で二次障害になり施設に来た子が沢山いる。

⇒対応の如何によって成否が分かれる。⇒その子に応じた対応必要。

- ③ また、学校だけに任せるのではなく、空き教室を活用してそのような子を受け入れる事も必要。



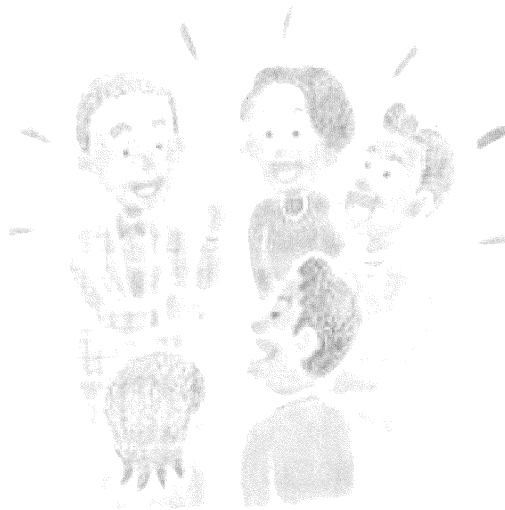
## 7. 所 感

- ① 今年2月に宇都宮大学で行われたシンポジウム「子どもの貧困と地域社会」で畠山理事長さんのお話を伺い感銘を受け、また、下野新聞の連載「希望って何ですか 貧困の中の子ども」を読み、この「ひだまり」に興味を持ちました。今回直接お話を伺い、思っていた以上の包容力の大きさと、子どもたちを守り抜こうとする信念の強さを肌で感じてきました。やはり、このような事業を支える力は、経営手腕でも経済力でもなく、どこまでも子どもたちに向き合い、寄り添う、暖かな心である事を学ばせて頂きました。
- ② 佐野市でもこのような取り組みをしたいと思いますが、果たしてこのような志を持った担い手が現れるかどうか、にかかっていると感じます。人材は居るのか？居なければ、育てるしかない。でもきっと居ると思います。
- ③ 行政にはそんな民間の力を見つけ出し、育成し、共に協力し合って、佐野市民の福祉向上のための環境整備をして頂きたいと思います。

以上 菅原 達

平成 28 年度 栃木県認知症フォーラム

笑顔で支えあう地域生活の実現に向けて  
～認知症の人や家族の思いから学ぶこと～



日時：平成 28 年 10 月 2 日  
13 : 30 ~ 16 : 00  
会場：栃木県庁東館講堂

## 【プログラム】

- 13:00 受付開始
- 13:30 開会挨拶  
栃木県保健福祉部長 近藤真寿 氏  
公益社団法人認知症の人と家族の会 栃木県支部代表 金澤林子 氏
- 13:40 基調講演  
認知症の人と家族に必要なサポート～介護者支援の視点から～  
日本大学文理学部心理学科 助教 北村世都 氏
- 14:40 休憩
- 14:55 座談会「思いを語る～語りからわかる大切なこと～」  
語り手  
高倉 敬治 氏（認知症とともに生きる当事者）  
大下 直樹 氏（認知症の人と家族の会 徳島県支部代表）  
聞き手  
金澤 林子 氏（認知症の人と家族の会 栃木県支部代表）  
コーディネーター  
永島 徹 氏（NPO 風の詩 副理事長）
- 15:50 閉会挨拶
- 16:00 閉会

